知ってほしい！

令和7年度
水道事業会計 決算概要

※ 本資料における計算式は、
杵築市数値が0のものを省略しています。
※ 本資料における数値は1万円未満を四捨五入していますので、
資料の内訳数値を合算した際、資料の合計値とずれが生じる場合があります。

水道事業会計のしくみ

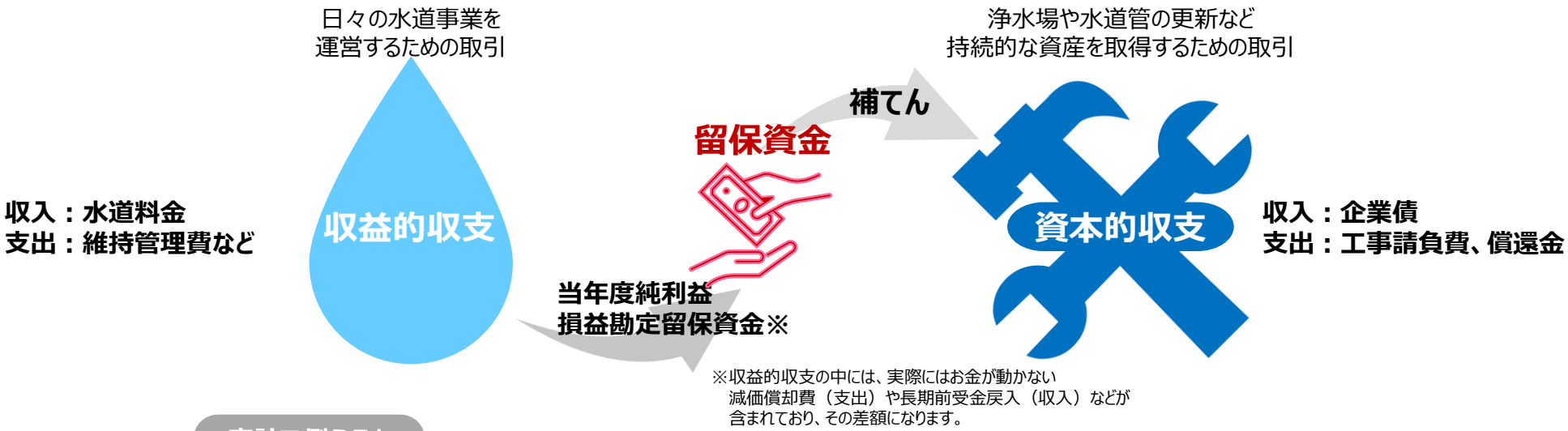
水道事業は、必要な費用を税金ではなく、水道利用者の皆様からいただいた水道料金で賄う **独立採算制** です。

会計も一般的な行政経費を扱う一般会計から独立して **水道事業会計** として経理を行っており、
地方公営企業法に基づき収益的収支と資本的収支に分かれています。

収益的収支 とは、日々の水道事業を運営するための取引のことで、
収入には水道料金、支出には人件費、動力費（電気代）、維持管理費、企業債の支払利息などがあげられます。

資本的収支 とは、浄水場や水道管の更新など持続的な資産を取得するための取引のことで、
収入には企業債（借金）、支出には工事請負費や償還金（借金の返済）などがあげられます。

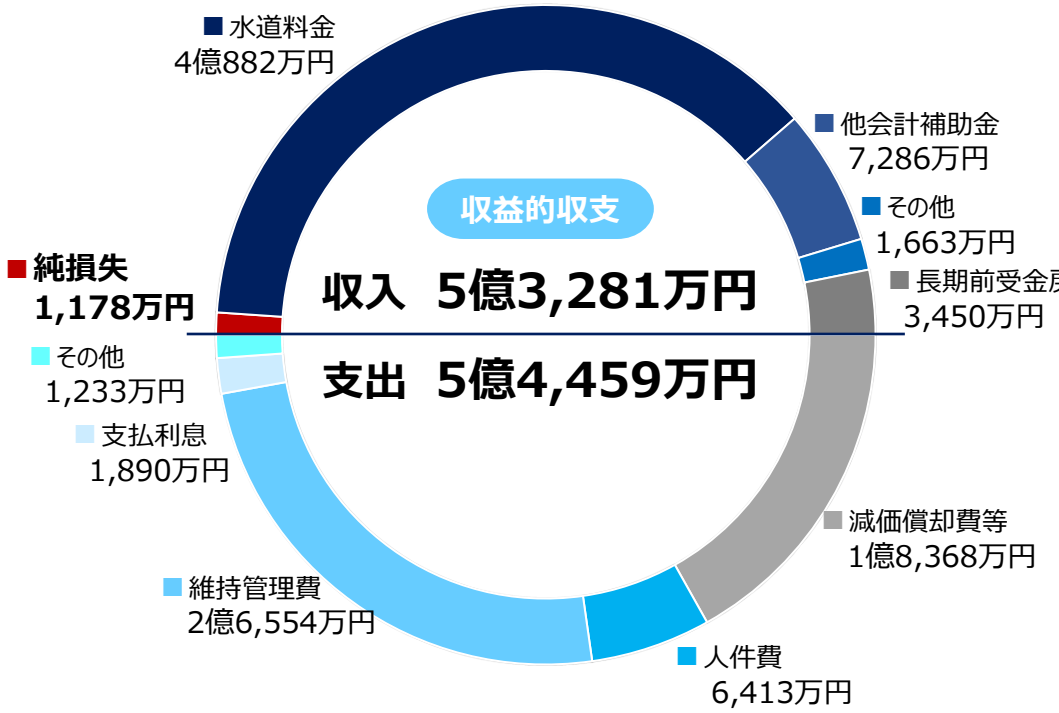
収益的収支で得た利益を資金として水道施設の整備を行っていく ことが水道事業経営の基本的なしくみです。

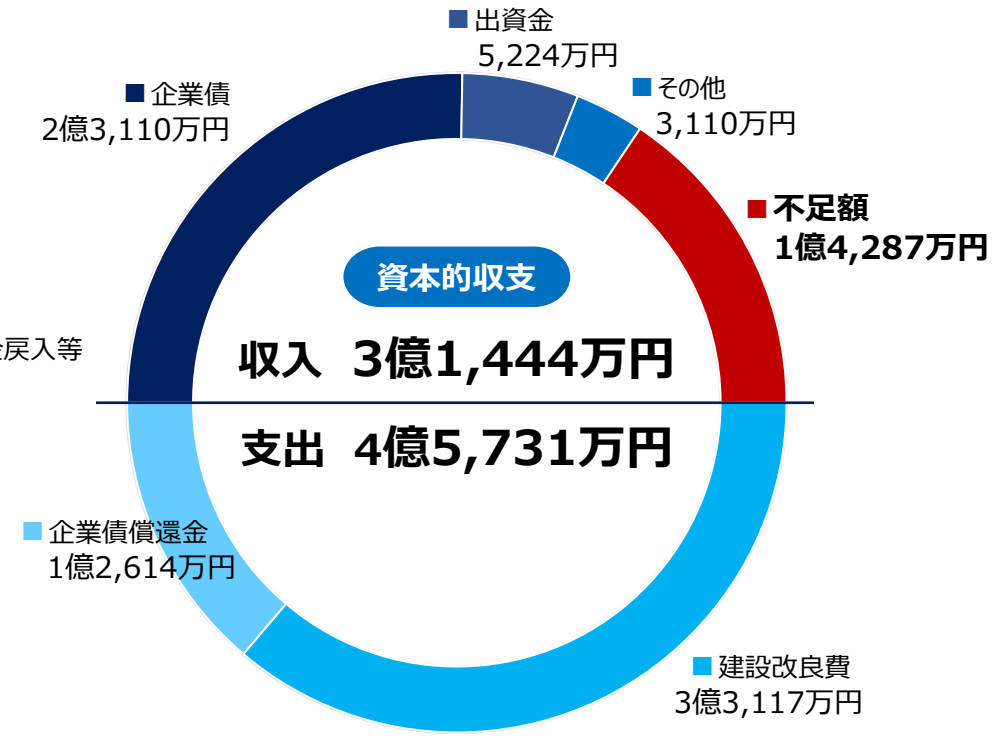


家計で例えると

収入：給料
支出：生活費
▶ **貯金** ▶
収入：銀行からの借入
支出：住宅や車の購入、ローンの返済

収益的収支（損益）と資本的収支





収益的収支は、支出が収入を1,178万円上回っている（純損失）ため、**赤字決算**となっています。

資本的収支では、支出が収入を上回っており、1億4,287万円の**不足額**が生じています。
不足額は、収益的収支で発生する損益勘定留保資金で補えてはいますが、将来の施設更新費用（留保資金）が十分に確保できない状態です。

今後も続く人口減少に伴う給水量低下、物価高騰による維持管理費増、老朽管の増加状況を考えると厳しい経営状況といえます。

1年間の利益が分かる損益計算書

水道料金
（給水収益）
4億882万円
前年▲426万円
（▲1.0%）

営業利益
▲9,476 万円
前年度比▲1,889万円
（▲24.9%）

＝営業収益－営業費用

営業利益とは本業によって
得た利益のことです。
営業収益の約98%を占める
水道料金のみで水道事業の運営が
行えていないことが分かります。

経常利益
▲807 万円
前年度比▲2,054万円
（▲164.7%）

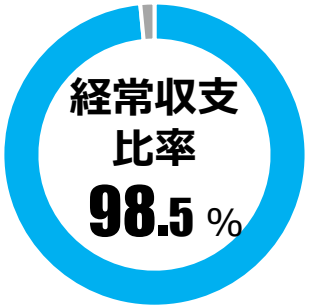
＝経常収益－経常費用

経常利益とは営業利益に
営業外利益を加えたものです。
主に他会計補助金（収入）の
影響により赤字幅は縮小しています。

純利益
▲1,178 万円
前年度比▲2,416万円
（▲195.1%）

＝総収益－総費用

純利益とは最終的な利益で、
経常利益に特別利益、特別損失の
影響を加味したものです。
R7は認可申請補助業務などの特別損益が
あったため、経常利益から悪化しています。



$$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示す
高いほうが良い指標です。
収益、費用ともに悪化しており、
前年度から3.9ポイント悪化し、100%を下回りました。
（参考）R6類似団体平均103.7%

1㎥（お風呂5杯程度の水量）の単価

有収水量 ※1
219 万㎥
前年▲25,123㎥
（▲1.1%）

供給単価
186.93 円/㎥
前年度比+0.19円/㎥
（+0.1%）

$$= \frac{\text{給水収益}}{\text{有収水量}}$$

水道水1㎥あたりの平均販売価格です。
料金改定を行っていないため、
ほぼ横ばいとなっています。

給水原価
231.54 円/㎥
前年度比＋11.94円/㎥
（＋5.4%）

$$= \frac{\text{経常費用} - \text{長期前受金戻入}}{\text{有収水量}}$$

水道水を1㎥作るのに必要な
経費です。有収水量の減少に
より若干上昇しました。
（参考）R6類似団体平均196.8円/㎥

資本費
79.75 円/㎥
前年度比+3.4円/㎥
（+4.5%）

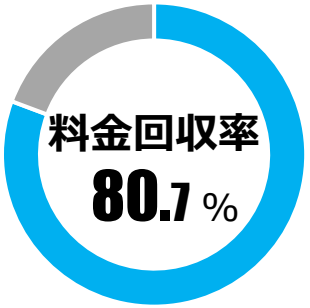
$$= \frac{\text{減価償却費} - \text{長期前受金戻入} + \text{企業債利息}}{\text{有収水量}}$$ ※2

水道水1㎥あたりの
水道施設の整備・更新にかかった経費です。
給水原価の約35%を占めています。

※1 水道料金の対象となった水量です。

※2 減価償却費
固定資産の取得費用を耐用年数に応じて分割し、
毎期の費用として均等に計上するものです。

長期前受金戻入
固定資産の取得の際に得た
財源（補助金等）を耐用年数に応じて分割し、
毎期の収益として均等に計上するものです。



$$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$$

100%以上であることが望ましく、
100%を下回っている場合は、給水に係る費用が
給水収益では賄いきれていないことを意味するため、
高いほうが良い指標です。前年度と変動はありません。
R11において現状維持の85.1%を目標としています。
（杵築市第3次総合計画）
（参考）R6類似団体平均92.1%

資本的収支における主な事業

杵築浄水場更新工事等



事業費	231,032,735 円
補助金	26,542,000 円
企業債	163,000,000 円
出資金	41,300,000 円
自主財源	190,735 円

佐田山香線配水管布設替工事



事業費	7,458,000 円
企業債	6,921,000 円
負担金	537,000 円
自主財源	0 円

八坂水源池導水ポンプ更新工事



事業費	5,599,000 円
企業債	5,599,000 円
自主財源	0 円

久木野尾地区水道災害復旧工事（R6繰）



事業費	3,575,000 円
補助金	2,849,000 円
企業債	600,000 円
自主財源	126,000 円

すべてが分かる貸借対照表

貸借対照表とは、年度末時点に所有しているすべての資産、負債及び資本を示す報告書です。
右側の負債、資本では、**お金の集め方（どうやって資金を確保したか）**が分かり、
左側の資産では、**お金の使い方（どのような状態でどのくらいあるか）**が分かります。

※1 未完成の固定資産（建物など）の現在までにかかっている費用です。

※2 資産取得時に得た財源（補助金等）で、返す必要がないお金です。

資産 49億2,098万円　負債 25億1,137万円

▲0.24% 総資産利益率

$$= \frac{\text{純利益}}{\text{資産}} \times 100$$

一般的企業であれば5%以上が優良とされる
高いほうが良い指標です。
資産が多すぎるため、施設更新が厳しい状況に
あることが分かります。
また、資産に対して利益が小さすぎるため
設備投資の効率が悪いとも言えます。

51.6% 有形固定資産減価償却率

$$= \frac{Ⓑ}{Ⓐ} \text{（右図）} \times 100$$

老朽化の進み具合が分かる、低いほうが良い指標です。
（参考）R6類似団体平均53.5%

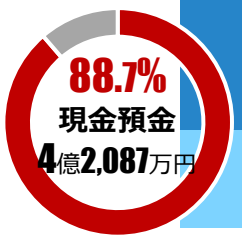
240.2% 流動比率

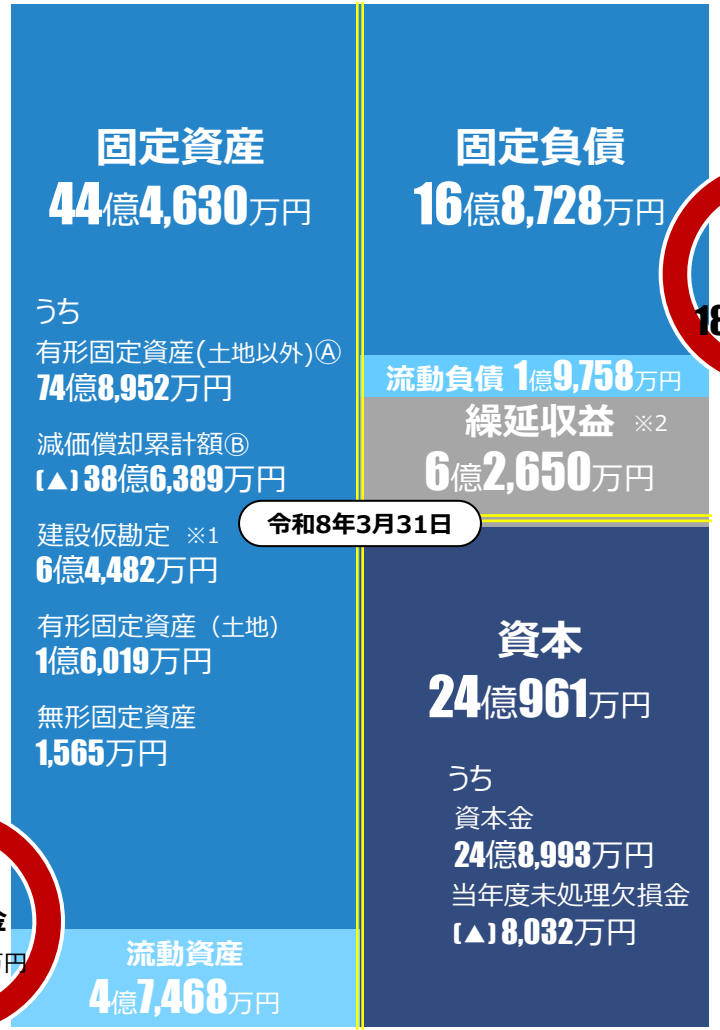
$$= \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

1年以内に支払わなければならないお金（流動負債）を
すぐ支払えるかどうかが分かる高いほうが良い指標です。
（参考）R6類似団体平均352.3%

現金預金

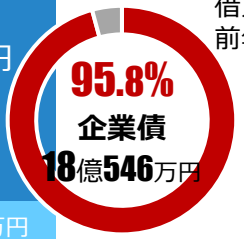
流動資産の88.7%を占める現金預金は
設備投資の縮小等の影響により、
前年度と比べ約4,800万円増加しました。





企業債（借金）

固定負債と流動負債の95.8%を占める
企業債は、浄水場の更新等の影響から
借入額＞償還額の状況となり、
前年度と比べ約1億500万円増加しました。



441.6% 企業債残高対給水収益比率

$$= \frac{\text{企業債}}{\text{給水収益}} \times 100$$

借金の規模が分かる、低いほうが良い指標です。
企業債の増加に伴い29.9ポイント悪化しました。
水道料金約4年半分の借金があるということです。
（参考）R6類似団体平均391.1%

19.2% 累積欠損金比率

$$= \frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益}} \times 100$$

損失の規模が分かる、低いほうが良い指標です。
R3に発生した欠損金が、前年度に比べ
1,178万円（R7純損失）増加したため、
累積欠損金比率も3.0ポイント悪化しました。
（参考）R6類似団体平均11.6%